

旧鈴木家武家屋敷と春蘭亭カフェ

この復元された武家屋敷は、鈴木家の支流が住んでいた場所で、1604年に主君の白石宗直（1577-1629）と共に水沢から移住しました。この年、宗直は後に伊達宗直として知られ、登米伊達家の初代当主となりました。

建物の正確な年代は不明ですが、1989年まで住宅として使用されており、その後、市の文化財として寄贈されました。1990年に建物の慎重な修復が行われた後、内部に「春蘭亭」というカフェが開店しました。

この住宅は、江戸時代（1603-1867）の農村建築の一例として優れており、木製の床に設置された登米風の囲炉裏（いろり）や磨かれた板で囲まれた空間が特徴です。また、鈴木家の家財道具として、引き出しのある小さな畳の部屋や化粧鏡、その他の家族の記念品が展示されています。武士の家柄にふさわしく、槍や薙刀（なぎなた）などの古い武器が壁に掛けられています。

「春蘭亭」という名前は、毎年春に庭で咲く蘭の花から作られる春蘭茶に由来しています。カフェと武家屋敷は、歴史的な建物や庭園を眺めながら、軽食や写真撮影を楽しめる憩いの場として人気です。